

国際法と国内法の関係

【教科書：pp.17-22】

I. 国際法と国内法の関係とは？

- 基本的な考え方
 - 国際法の規律対象の変質（世俗化）
 - 義務の変質（消極的義務→積極的義務）
- 議論の対立
 - 一元論
エッセンス：
 - ◇ 国内法優位の一元論
 - 根拠
 - 問題点
 - ◇ 国際法優位の一元論
 - 根拠
 - 問題点
 - 二元論
 - エッセンス
 - 問題点
 - 等位理論（調整理論）
 - エッセンス
 - 一元論・二元論との相違
 - 調整義務

II. 国際法秩序における国内法の地位

- 国内法は国際法上の義務逸脱の理由にならない
- 国際法の国内的実施義務
 - 実施方法の裁量

III. 国内法秩序における国際法の地位

- 条約の国内的効力

- 変形方式

- 帰結：

- 例：イギリス

- 一般的受容方式（編入方式）

- 帰結：

- ◇ 条約の自動執行性

- 自動執行的条約（self-executing treaty）

- 条件

- ◇ 当事国の意思

- ◇ 条文の明確性

- 例：国際人権規約（A/B）は自動執行性があるか？

- 慣習法の国内的効力

- 一般的受容

- 効力順位（教科書 21 頁参照）